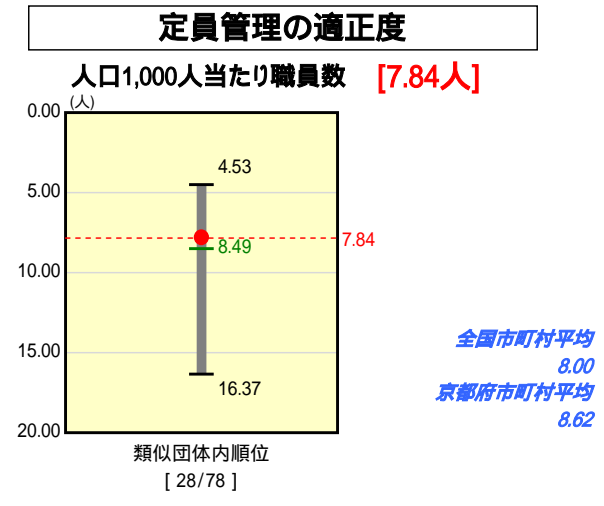
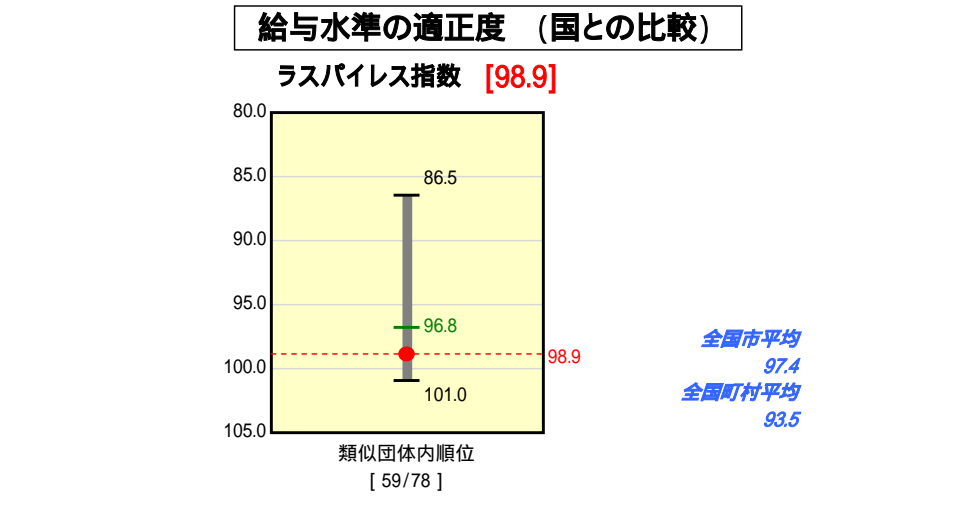
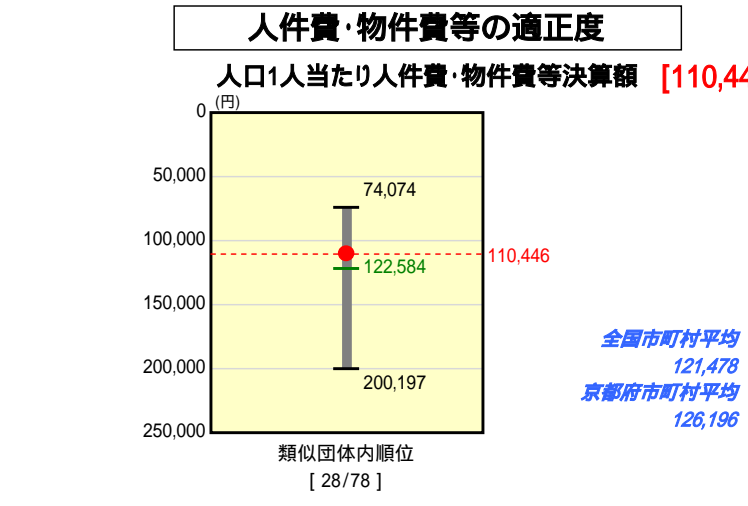
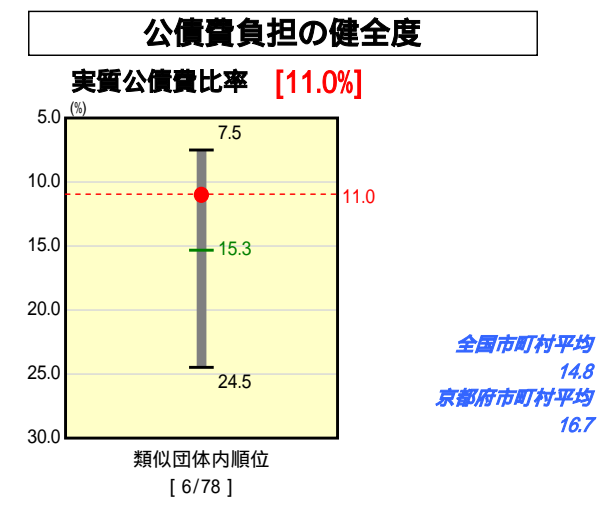
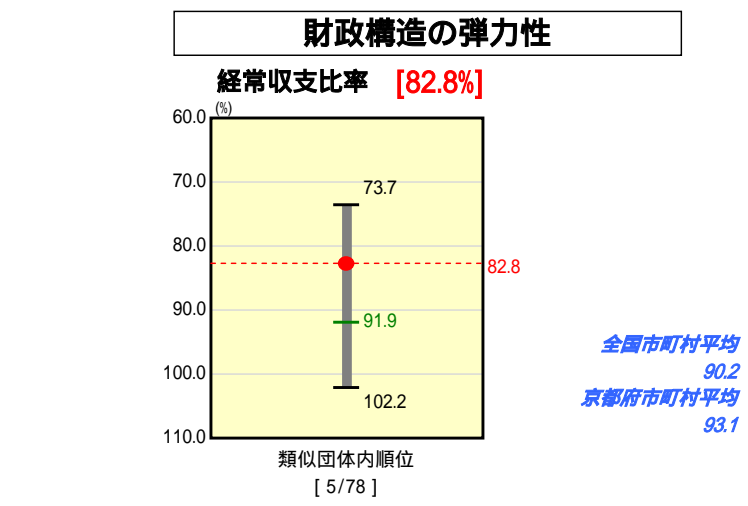
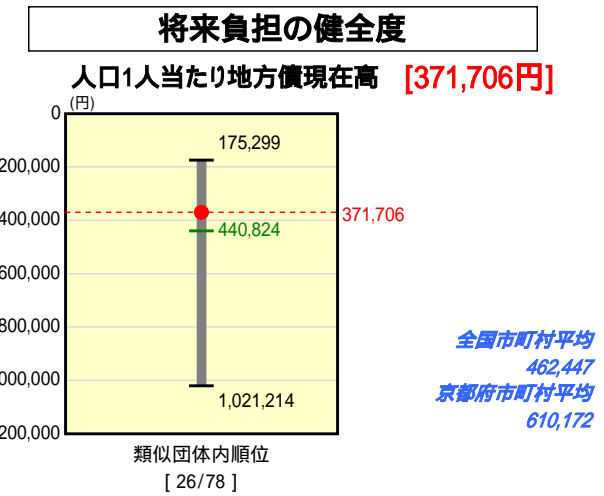
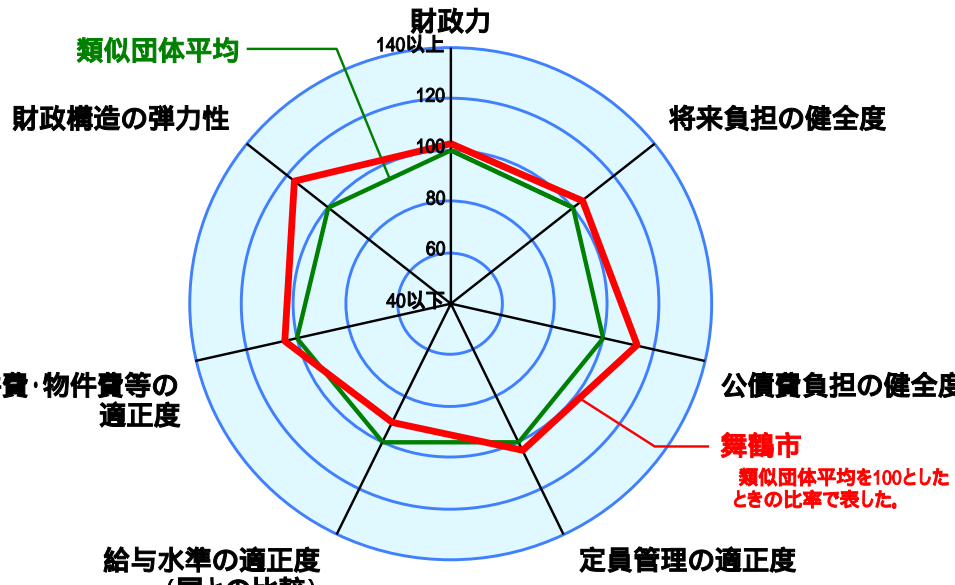
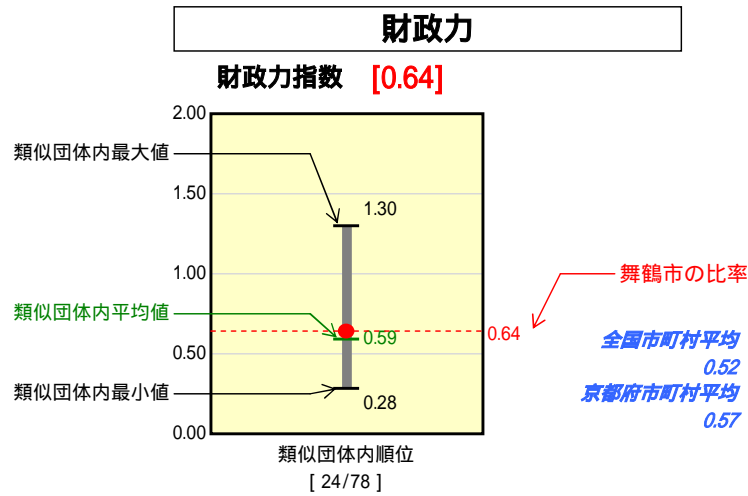


市町村財政比較分析表(平成17年度普通会計決算)

京都府 舞鶴市

人口	91,884人	(H18.3.31現在)
面積	342.15	km ²
歳入総額	36,124,309	千円
歳出総額	35,242,027	千円
実質収支	470,694	千円



分析欄

【財政力(財政力指数)】
平成16年度に舞鶴発電所が稼働したこと等によって、市税が大幅に増加し、類似団体平均を上回る結果となった。また、財政力指数は3ヶ年平均により算出するため、平成18年度も財政力指数が0.07ポイント上昇する。

【財政構造の弾力性(経常収支比率)】
従来から類似団体平均を下回る水準にある。さらに平成17年度では社会保障費関連の扶助費や繰出金などが年々増加し、比率が増加傾向の中、市税が約37億円増加したことや事業の見直し等により、指数が対前年度比で2.9ポイント改善した。今後も本市総合計画の目標値である85%未満を維持できるよう、「選択と集中」による事業精査を行い、経常経費の抑制に努める。

【公債費負担の健全度(実質公債費比率)】及び【将来負担の健全度(人口1人当たり地方債現在高)】
従来から交付税措置のある地方債を優先的に活用するとともに、発行総額を抑制してきたため、類似団体平均を下回る水準となっている。今後も建設事業の執行にあたっては、安易に地方債に頼ることなく、引き続き厳しい精査・選択に努める。

【給与水準の適正度(ラスパイレス指数)】
類似団体平均を若干超えているが、従来から国家公務員に準拠した給与体系を堅持し、常に総点検・見直しを図ってきたところであり、今後とも給与水準の適正化に努める。

【定員管理の適正度(人口1,000人当たり職員数)】
複眼都市という特殊性もある中で、定員の適正化に努めてきた結果、類似団体平均を下回る水準にある。今後も継続して集中改革プラン及び総務省の第8次定員モデルの指標に基づき、組織改革や事務事業の見直し等を総合的に推進し、適正な定員管理に努める。

【人件費・物件費等の適正度(人口1人当たり人件費・物件費等決算額)】
類似団体平均を下回っているが、一般事務経費や施設の管理経費を毎年精査し、効率化や簡素化による経費の抑制・節減に取り込んできたことによるものである。今後もさらに事務事業の整理・見直しを行い、人件費や物件費などの抑制に努める。